

第六章 利便性における道路診断チェックシート Vol.2 の改良

第五章において、以下のような道路診断チェックシート Vol.2 の利便性において改良すべき点が挙げられた。

基本的なものの定義づけが必要である

計算がややこしい・めんどくさい

シートが大きすぎる

文章表現をわかりやすく

調査自体が危険である

客観的評価基準も必要

調査項目で難しい項目がある

チェック方法の説明を細かく

また、第四章において、以下のような道路診断チェックシートに加えるべき調査項目が挙げられた。

(1)人・自転車・車の交通量

(2)路上駐車台数

(3)通行マナーについて

(4)交差点における自動車の交通量

(5)車道幅の測定

(6)通行区分のためのガードレールや縁石の設置状況

本章ではこれらについて、本研究における簡易道路診断ツール作成の目的及び、道路診断チェックシートの作成過程を振り返り、その目的と照らし合わせ、最終的な道路診断チェックシート(本章において、これ以降においては「改良型シート」と呼ぶ)改善策を考案する。

6-1 各改善すべき点についての考察及び具体的改良案

第一章及び第三章において述べた本研究における簡易道路診断ツール作成の目的、第三章のテーマであった道路診断チェックシートの試作における過程より、本研究における道路診断チェックシートに必要な条件を挙げた。

四章において改善すべき点として挙げられた 9 項目についての対応を以下に示す。これにより、道路診断チェックシート Ver.2 の改善点を決定する。

改良すべき項目 : 基本的なものの定義づけが必要である

この項目について主に指摘があったのは、調査項目 に該当する「交差点の定義が分からない」そして、調査項目 に該当する「駐車場の定義は？駐車場が閉鎖などによって、

しょう不可能な場合はどうするのか？」の計 2 項目である。

この項目についての対応

これについては試作の時点では気にかけることなく、チェックシートを作成していた。よってこの項目について多くの被験者から指摘を受けてしまった。また、これが原因で、一部分の調査を行っていない被験者も見られた。

よって、改良型シートにおいては指摘を受けた「交差点」及び「駐車場の入り口」の定義を図解を用いて定義することはもちろん、この他にも、「歩道」や「施設」「道路にある障害物」についてもしっかりとした定義づけを追加する。→(改良を行う)

改良すべき項目：計算がめんどくさい・ややこしい

本チェックシートは、調査項目 において密度の計算を行う項目が存在する。これについては、割り算となってしまうため、暗算では計算を行うことが難しい。また、スコアを算出する場合に、全ての調査項重く 9 項目におけるスコア足し合わせる必要がある。

そこで、調査時において電卓や、電卓機能のある携帯電話などが必要になってくるため、「調査がめんどくさくなる」という意見を多く頂いている。

この項目についての対応

調査項目 については、第三章においても述べたように彦根市の道路において交差点が非常に多くなっている実情から、交差点における出会いがしらの事故の多発が懸念される。よって、この項目については特に重要項目であり、調査項目より除外することは非常に難しいと考えられる。

また、調査対象地により調査距離が異なることもあるため、「密度」として算出せねば、ある道路についての危険度を他の道路についての危険度と相互比較することが難しくなると考えられる。よってこの項目については現状維持することにする。→(改良を行わない)

改良すべき項目：シートが大きすぎる

本チェックシートは 1 調査地点に月 A3 サイズ 1 枚のシートとなっている。調査結果記入欄はもちろん、調査における説明書きやスコア記入欄全てを設け、1 枚を見ることで全ての調査方法が分かるように作成している。

しかし、A3 サイズという大きさが、シートを扱いづらくしているという意見を頂いた。「持ち運びにおける利便性の視点ではやはり A4 サイズがよい」という意見が多数であった。

この項目についての対応

当初、道路診断チェックシートは 3-3-4 で述べたように、「調査シート」「採点シート」「説明シート」の 3 枚一組で構成されていた。それにおいて余分な説明を省き利便性を重視して 1 枚にまとめ、分かりやすくしたのであるが、それが裏目にでてしまう結果になってし

まった。

これより、当初の A4 用紙 3 枚構成に戻すことで、調査に関する説明を多くすることができ。それにより、改良すべき項目：シートの文章表現についてや、改良すべき項目：チェック方法の説明を細かくすることも可能になる。さらに、シートも小さくなり、要求に対応することも可能になる。

→(改良を行う)

改良すべき項目：調査自体が危険である

この項目で上がった意見として主なものが「調査に夢中になってしまい、周りのものが見えず、危険である」と言うものである。また、「調査中に危険な目にあった」という意見もある。本チェックシートは実際に現場に出て調査を行うものなので、危険を伴ってしまうと言う意見である。

この項目についての対応

前述したように、調査事自体が現場での調査となることから、「調査が危険を全く伴うことなく実行できる」とすることは不可能である。

よって、これについては注意を呼びかける注意書きを作成することで対応することにする。これによって、「危険を全く伴うことなく調査を行うことができる」と言うことは出来ないが、注意を呼びかけることで調査における危険については軽減することができると考えられる。→(改良を行う)

改良すべき項目：客観的評価基準が必要

第三章で述べたように、道路診断チェックシート Vol.2 における道路評価は客観的評価で評価いただくと調査が複雑になり、難しくなってしまうという理由から全ての項目において主観的な判断を要求している。

しかし、「主観的判断だけでは評価が難しい」という意見を多く頂いている。それは、主観的判断のみによる判断では、評価の個人差が大きく生じてしまい、被験者によっては「こんな結果でよいのか？」という不安を生み出しているものだと考察することができる。また、「客観的判断基準が必要である」という意見があり、その理由として、「客観的評価基準が無ければ、主観的評価も難しいのではないか？」ということが挙げられている。

この項目についての対応

上述したように、客観的評価のみの評価では非常に評価が難しくなってしまうため、改良版シートにおいても、主観的判断を主な判断方法として取り入れることについては従来と同様にする。

また、道路診断チェックシート Vol.1 のように、例を挙げると、道路診断チェックシー

ト Vol.2 のようにおよその距離を測定するのではなく、測定器具を利用し、正確な距離を測るなど、やや客観的な評価方法も取り入れることにする。

さらに、指摘のあった通り、各調査項目において客観的な評価基準を表記することにする。また、それが不可能な項目についても「表記例」のように主観的な評価の基準を表記することにする。→(改良を行う)

改良すべき項目：調査項目で難しい項目がある

「計算項目があること」や、「通行可能幅の測定については、どの地点を測定するのが分からない」などにおいて調査することが非常に難しいと言う指摘を多く頂いている。

この項目についての対応

これについては第三章において述べたが、誰にでも簡単にできるという目的において 9 項目を作成した。これ以上項目を削るなどして調査を簡単にすることは、評価結果の精度の信頼性を下げてしまうことになる。

これについては改良型シートにおいて、これまで述べた改良すべき項目 ~ を改良することで、調査が難しい項目については対応することとする。

6-2 調査項目における改良すべき点についての考察及び具体的改良案

これまでは、チェックシートの調査項目以外のこと(シートの形、調査時に置おける問題点など)について取り扱ってきた。

本項においては、新規に調査項目に加える項目についての意見を 6-1 のように、改良型シートに取り入れるか否かを考察する。

新規に加えるべき著さ項目(1)：人・自転車・車の交通量データ・(2)路上駐車台数

これは、第三章において述べたように一般の方には調査が困難であるということで、調査項目から削除した項目であるが、この項目は調査項目に加えるべきであるという意見が多く挙がった。

この項目についての対応

道路診断チェックシート Vol.1 においてはこの項目に関して、ひこね TMO のデータを使用し、調査を行った。しかし、一般の方にとってこのデータを収集することは容易ではないと考えられる。

これについては交通量データ及び路上駐車台数をあらかじめ提示しておき、それと調査道路との量を相互比較することで、細かい数値を算出するのではなくある程度の値の見当を付けることにする。そこで交通量を 5 段階のランクで表すことで、評価を行いやすくしている。→(改良を行う)

新規に加えるべき著さ項目(3)：通行マナーについて

自動車及び自転車を運転する方の交通弱者に対するマナーの悪さは非常によく目立つものである。実際に調査中にこのマナーの悪さで危険な目にあってしまったという被験者もいる。

この項目についての対応

これについて、調査項目に加えることは非常に難しいと考える。客観的な評価を例示することも難しく、時と場合によって決まる項目であり、場所によって結果が異なる項目ではないため、調査道路による相互比較を行うことも出来ない。→(改良は行わない)

新規に加えるべき調査項目(4)：交差点における自動車の交通量

(1)における道路交通量とは異なり、交差点に対象地を特化した交通量を測定するべきという意見である。この指摘は、特に交差点では交通量が道路の危険を大きく左右する要素となっていると言うことが大きな理由となっている。

この項目についての対応

これについてはデータを持ち合わせていないため、提示することも難しい。また、実際に交通量を測定することも難しいため、この項目を新規追加することは難しいと考えられる。→(改良は行わない)

新規に加えるべき調査項目(5)：車道幅の測定

道路診断チェックシート Vol.2 においては、自転車が通行する歩道及び路肩幅を測定する項目は存在するが、危険であるという理由で自動車が通行する車道幅は測定することにしていない。しかし、「車道幅によって自転車で通行する際に危険と感じる度合いが変わってくるため」という理由により、この項目の追加を大きく求められている。

この項目についての対応

例え広くない道であっても車道幅を測定することは、大変危険である。このためチェックシートにおける調査項目の において対応を行っている。これにより、車道が狭い場合には、自動車は通行中の自転車に接近して走ってくるため、 の評価を下げるができる。よって、これについては において対応しており、実測が難しいため、この項目は追加しないこととする。→(改良は行わない)

新規に加えるべき調査項目(6)：通行区分のためのガードレールや縁石の設置状況

歩道と車道分ける明確なものがあるかどうか調査の必要があるという意見である。

この項目についての対応

これについては 6-1 の において「歩道の定義」において対応した、ここでは省略する。

6-3 改良型シート

以上より、改良型シートに向けての改良点を以下にまとめる。チェックシートの形式及び表記についての改良方法を示す。

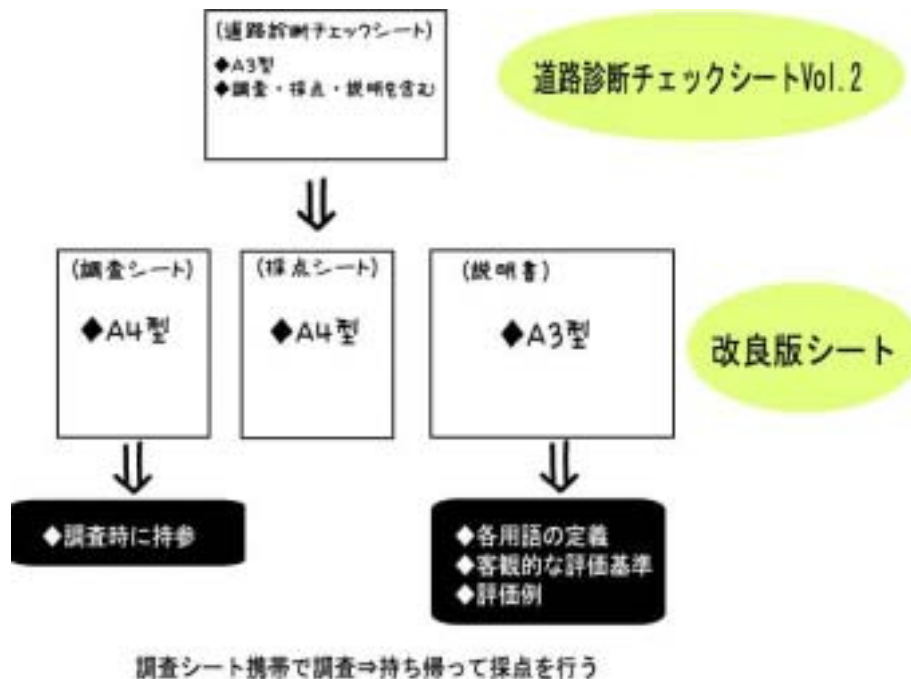


図 6-1 改良型シートの形式

道路診断チェックシートにおいては、説明及び調査、そして採点までを 1 度にまとめて行うことが可能であるように作成する。これを以下に示す 3 枚に分割する。

調査シート(調査結果を記入するシート・A4 型)：調査時に持参

採点シート(スコアを算出するシート・A4 型)

説明書(調査に関する説明は全てこの紙面によって表記する A3 型)

このように調査に持っていくシートについては A4 型のシート一枚となっている。これにより、調査時にシートが嵩張ることがなくなる。また、採点は調査が終わった後にやっていただくことになるので、調査に集中することができる。

また、改良型シートにおける調査内容では、

人・自転車・車の交通量データ
路上駐車台数

この２項目を新たに追加することにする。

以上が道路診断チェックシートの改良案である。この改良案を基に、道路診断チェックシートを作成することが今後の課題である。